

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

		要 旨
学位申請者	西阪 多恵子 【比較社会文化学専攻 平成23年度生】	<p>この論文は、20 世紀初頭のイギリス室内楽を推進したアマチュア音楽家として知られる W.W.コベット (Walter Wison Cobbett, 1847-1937) について、その活動をアマチュアという観点から検証し、当時のイギリスの音楽状況を踏まえながら、同時代人にとってどのようなものであったのかを明らかにすることを目的としている。</p> <p>コベットの主たる事業としては、〈ファンタジー〉という室内楽のジャンルを主とした作曲コンペティションや、『コベット室内楽事典』の編纂が取り上げられ、いわばプロフェッショナルを中心とする音楽界への貢献が重視されてきた。しかしながら、こうした見方は『ニューグローヴ音楽事典』の 1980 年版で取られたもので、同時代人が執筆した『グローヴ音楽事典』諸版では音楽に関わる人びとのために活動したアマチュアヴァイオリン奏者として記され、再度、2001 年の『ニューグローヴ音楽事典』第 2 版では同時代人からの視点へと回帰している。</p> <p>この研究はこうした 21 世紀の研究の流れを踏まえて、コベットの位置づけを行なうものであり、同時代の刊行史料だけでなく、未刊行史料の音楽家組合議事録や女性音楽家協会アーカイヴなどコベットが入会していた組織の史料を丹念に読み解き、コベットが同時代のアマチュアとプロの音楽家たちの中で活動した軌跡を浮き彫りにした。</p> <p>その結果として、コベットが様々な組織と関わり、かつ主導しながら、アマチュア、プロ、女性という多様な観点を受け入れていたこと、一貫して音楽を愛する者としてのアマチュアの立場を取りつつ、相互理解を深める活動をしてきたことが明らかとなった。</p> <p>こうしたコベットの姿勢は現代の音楽界に求められる多視点的な視座や男性プロ中心性に対する柔軟なジェンダー的視座への多くの示唆を与えることになり、この研究は、音楽史研究のみならず、ジェンダー研究にも大きく貢献する内容である。</p>
論文題目	W.W.コベットの研究 -アマチュアの観点から	
審査委員	(主査) 教授 永原 恵三	
	教授 戸谷 陽子	
	助教 井上 登喜子	
	准教授 中村 美奈子	
	聖徳大学教授 徳丸 吉彦	